
 書 評 ・ 紹 介

Yoshitaka Ishikawa ed.

*International Migrants in Japan: Contributions in an Era
of Population Decline*

Trans Pacific Press and Kyoto University Press, 2015, xxiv + 313p.

本書は、前書きにあるとおり2009年から2012年まで行われた日本の外国人居住者に関する共同研究の主要な成果をまとめたものである。内容は3部、12章からなる。

第1部は全国レベルの実証研究として4本の論文を載せている。1章では日本における外国人の職業について、欧米の理論などを踏まえ、国勢調査データの多変量解析を行い、その規定要因を男女国籍別に明らかにした。2章では外国人女性の出生について検討した。とくに、国勢調査人口を分母人口に用いて合計出生率を人口学的手法により推定し、ここで得られた近年の外国人女性全体の合計出生率は日本人女性より低いこと、ただし日本全体の合計出生率を引き下げる効果はごく小さいことなどを示した。3章では国際結婚、外国人同士、日本人同士の夫婦について、子ども数と人口学的・社会経済的特徴の関連を多変量解析で検討した。夫日本一妻アジアの国際結婚で、アジア以外の国際結婚より子ども数が少ないことなどを示し、前者における「見合い」(“arranged”)結婚の影響などを論じた。4章では日本における帰化の時空間的变化を分析し、全体として東京大都市地域と京阪神大都市地域での多さが目立つことなどを示した。

第2部はエスニシティ別、地域別の実証研究として5つの論文を収録している。5章では結婚移動者、および「新」日系フィリピン人(ここでは戦後フィリピン人女性と日本人の間に生まれた人々)とその母親などで、フィリピンから来日した人々が、日本の人口減少地域で暮らすことを可能にする社会的条件を、聞き取り調査などにより検討した。6章から8章は浜松市の外国人に関する研究で、6章ではブラジル人によるエスニック経済の成立と展開に焦点を当て、エスニック集団によるエスニックビジネスの利用や地域住民の受けとめ方、地域コミュニティで果たす可能性のある役割などを調査・分析した。7章では外国人の社会的排除の有無を外国人の生活の質(QOL)の観点から検討するため、食料品店など日常生活のための施設への近接性についてGISなどを使って分析した。8章では市民団体による外国人児童への教育支援の状況を調査・分析した。9章ではトルコからの移動者について、愛知の2つのコミュニティの特徴を検討した。

第3部は政策の研究として3つの論文を掲載している。10章では外国人、とくに外国人労働者の流入に対する日本政府の立場について、その特徴と近年の変化を明らかにした。11章では日本の労働市場へのブラジル人の組み込みと近年の景気後退時のブラジル人の雇用問題、外国人の失業への日本政府の対応などについて検討した。12章では結婚で来日した外国人を社会に統合するため、町村部など(“rural”)の自治体が実施してきた支援策などを調査・分析した。

本書は地理学者と社会学者による共同研究の書である。社会学にくらべ、外国人居住者に関する日本の地理学の研究は少ない。その意味で地理学的視点による外国人居住者の研究が書籍の収録論文として、また英語で出版されることは、当該テーマを専門とする国内外の研究者にとって意義深い。人口研究にとっては、外国人による日本の人口減少への影響を、人口増減の面から直接的に検討した章が多くないように思われる点がやや残念だが、外国人居住者や彼ら・彼女らの子どもたちが最近の日本社会とどう関わり、社会の諸側面へどのような影響を与えているかを示したことは、本書の大きな成果である。本書のような試みがこの先も続いていくことを望む。

(清水 昌人)